

## 1. 一般社団法人日本病理学会平成27年度秋期特別総会(社員総会)のご通知

平成27年11月5日(木)14時00分より15時00分まで東京大学安田講堂(東京都・文京区)に於いて、一般社団法人日本病理学会平成27年度秋期特別総会(社員総会)を開催いたします。下記事項の審議となりますので、是非ともご出席くださいますようお願い申し上げます。正会員には出欠葉書を送付しておりますので、必要事項をご記入の上、10月13日(火)必着にて必ずご投函くださいますようお願いいたします。特にご欠席の場合には、この葉書が委任状となり、総会成立のための必要書類となりますので、ご高配下くださいませ。尚、期日までに葉書のご提出がない正会員には、事務局もしくは担当理事よりメールまたは電話にて提出のお願いを差し上げる場合がございますのでご協力下さい。

### 記

#### 議題

1. 平成28年度事業計画ならびに収支予算の件
2. 第63回(平成29年度)秋期特別総会会長選出の件
3. 第107回(平成30年度)総会会長選出の件
4. 日本病理学会誌(学会抄録集)紙媒体廃止の件
5. 役員選挙制度変更にとりまう定款施行細則、支部規程、役員(理事、監事)規程等改定の件
6. 口腔病理専門医制度変更にとりまう定款施行細則、口腔病理専門医制度規程等改定の件
7. その他

以上

#### 出欠葉書(委任状を含む)送付の留意事項

- ※1. 学術集會にご参加の場合でも、この社員総会(約1時間)をご欠席される場合は、「欠席」となり、委任状のご提出が必要となります。
- ※2. 委任状は本人の署名、捺印(原則サインは不可)の両方が揃わない場合、無効となり再提出をお願いすることとなります。
- ※3. 名誉会員、功勞会員、学生会員には定款により議決権がない(正会員ではない)ため、出欠葉書の郵送はされていません。
- ※4. 提出期限は10月13日(火・必着)です。

## 2. 病理専門医資格の更新について

病理専門医資格更新の本年度該当者には、学会事務局より必要書類が9月18日付で送付されております。本年度該当者は、第3回(1981年)認定登録者ならびに第3回(1985年)、第8回(1990年)、第13回(1995年)、第18回(2000年)、第23回(2005年)、第28回(2010年)試験合格者になります。該当であるにもかかわらず、必要書類が送付されていない場合は、事務局までご連絡ください。

2015年秋の更新対象者より、日本専門医機構認定病理専門医への移行が開始されます。

可能な限り日本専門医機構の定めた更新基準で更新を行って下さいますようお願いいたします。

提出締め切り: 平27年10月31日(土)消印有効

参考HP:

<http://pathology.or.jp/senmoni/20150918renew%20info.pdf>

※更新のご希望がない場合も、必ず事務局宛にご一報下さい。

※上記以外で更新の手続きが遅れていた方で、本年度に更新申請を希望される方は、日本病理学会事務局までご連絡下さい。必要書類を送付いたします。今回は日本病理学会専門医資格復帰の更新申請をしていただきます。次回の更新で日本専門医機構認定病理専門医へ移行が可能です。

## 3. 口腔病理専門医資格の更新について

日本病理学会口腔病理専門医資格更新の本年度該当者には、学会事務局より必要書類が9月18日付で送付されております。本年度該当者は、第3回(1991年)認定登録者ならびに第3回(1995年)、第8回(2000年)、第13回(2005年)、第18回(2010年)試験合格者になります。該当であるにもかかわらず、必要書類が送付されていない場合は、事務局までご連絡ください。

また、上記以外で更新の手続きが遅れていた方で、本年度に更新申請を希望される方は、日本病理学会事務局までご連絡下さい。必要書類を送付いたします。

提出締め切り: 平27年10月31日(土)消印有効

※更新のご希望がない場合も、必ず事務局宛にご一報下さい。

#### 4. 日本病理学会認定施設の認定申請（新規）及び登録施設確認申請（新規）について

標記のとおり、病理学会認定施設、及び登録施設の新規申請を受け付けております。

ご希望の施設は、下記 HP をご確認ください、事務局より必要書類を取り寄せの上、所定の手続きをおとり下さい。今回は、現行の日本病理学会専門医制度における研修施設の申請受付となります。

学会 HP 新着情報 9 月 6 日付

「日本病理学会認定施設の認定申請および登録施設の確認申請について」

<http://pathology.or.jp/news/whats/application-150906.html>

申請に必要な書類の請求・送付先

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-2-5 聖堂前ビル 7 階  
日本病理学会事務局 施設申請受付係

TEL 03-6206-9070 E-mail: jsp-admin@umin.ac.jp

提出締め切り 平成 27 年 10 月 31 日（土）消印有効

※申請する施設は、剖検輯報（第 57 輯，2014 年分）のデータ登録提出が必須です。

#### 5. 剖検輯報第 57 輯の剖検情報登録についてのご願い

剖検輯報（第 57 輯，2014 年分）のデータ登録につき、該当施設へ 8 月末に書類一式をお送りしておりますのでご協力よろしくご願いいたします。提出締切は平成 27 年 10 月 31 日（土）消印有効です。

病理専門医研修施設（認定施設・登録施設）の申請、更新には、このデータ登録が期限内に行われていることが必須となりますので、各施設の研修指導責任者におかれては、ご留意よろしくご願いいたします。

#### 6. 第 12 回日本病理学会カンファレンス 2015 六甲山開催報告

世話人：福本 学

（東北大学加齢医学研究所 病態臓器構築研究分野）

黒田 雅彦（東京医科大学 分子病理学分野）

去る 7 月 24・25 日に六甲山ホテルにおいて盛会のうちに無事、終了させていただきました。

今回の企画テーマは、デジタル病理学における形態の数値化とそこから始まる時空間を超えての情報交換が可能となる利便性、数理解析による形態解析とどこまで自動診断としての精度が高まる可能性についてでした。さらにデジタル病理学の間を埋めるような生物学の発展についてでした。我が国の最先端の方々とドイツ・ハイデルベルグ大学の Eils 教授に、お忙しい中を泊りがけのカンファレンスに参加・講演をしていただきました。参加のポスター発表も、余りの熱気で予定時間をオーバーしてしまいました。アンケート結果からも、参加者にとって病理診断と病理学

の明日を考える機会となったと自負しております。

カンファレンス当日の天候には恵まれました。しかし、丁度 1 週間前に上陸した台風 11 号のため、表六甲ドライブウェイが通行止めとなっており、シャトルバスの送迎に時間がかかったこと、最寄り駅からタクシーの参加者には迂回のために出費が多かったことは残念でした。台風と重なっていたら偶発事故も含めて開催すら危ぶまれたことを考えると、関係者全員の日頃の心がけの賜物と感謝申し上げます。

来年は六甲山ホテルの改修工事もあり、どのような会場運営となるかは不明ですが、さらに多くの学会員が参加され熱気溢れるカンファレンスとなることを祈念致します。

参照ホームページ

<http://pathology.or.jp/news/whats/conference-150907.html>

#### 7. 第 9 回 診断病理サマーフェスト 病理と臨床の対話 開催報告

世話人：長田道夫

（筑波大学医学医療系、腎・血管病理学）

今年のサマーフェストは、どちらも例年開催されている病理学会の病理診断サマーフェストと腎病理夏の学校とのジョイントというかたちで 2015 年 9 月 5 日（土）、6（日）に京都テルサにて開催しました。例年のように 8 月開催は会場の都合でかなわず、9 月になってしまいましたが、参加申し込みは多く会場の仕様を変更し、さらに追加募集を行いました。最終的には参加申し込み 486 名、当日参加者 475 名（研修医総数 111 名）病理学会会員 211 名（病理研修医 37 名）でした。腎病理を専門としない（腎病理協会の会員ではない）病理医約 200 名。

今回のテーマは、「腎生検：患者のためになる病理診断のあり方」としましたが、腎生検病理診断の本質、すなわち臨床に意味のある病理診断をどのように構築するかについて、主に腎病理を専門とされない病理医と、これから腎臓内科を研鑽する臨床研修医に対して、わかりやすく解説することを目的としました。腎生検病理診断はアトラスを持っていてもなかなか診断できないという特殊な領域なので、講習会の時間内では十分に理解が難しいと考え、後に繰り返して勉強できるようにハンドアウトの充実を図り、また実際の標本の見方や考え方を提示するためにバーチャルスライドを用いた症例検討を行いました。

当日は 400 名を超える参加者の受付を円滑にするために、昨今のマラソン大会のように事前にハンドアウト引換券のはがきを発送し、400 名が約 10 分で会場入りすることが出来たのでまず安心しました。京都テルサは講習会会場としては十分な環境であり、交通や会場としての利便性は高いことに加えて、バーチャルスライドも大型スクリーンで見やすく大変効果的でした。いくつかの工夫をして会の進行を遅らせることなく、ほぼ定刻に終了しました。昨

年の乳腺のフェストで行われた実技応答の時間を別途設けることも、疑問点を会員でシェア出来て大変効果的でした。受講者は最後まで減らず会場は熱気にあふれており、腎生検病理診断への関心が高いことを実感しました。これも、今回講師として参加いただいた諸先生方の多大なるご協力の賜物です。また、このようなプログラムは、これまであまり行われてこなかったため、多少不安はありましたが、参加者数やハンドアウトの完売などから、腎生検病理診断の新しい診断セミナーのありかたでもあると思いました。プログラムを多少欲張ってしまい、休憩時間が少なかったことは反省すべき点ですが、それ以外は準備や運営は極めてスムーズであり、これも病理学会事務局、京都大学スタッフの御協力の賜物と厚く御礼申し上げます。講評と閉会の挨拶は、小田義直担当理事と羽賀博典診断病理サマーフェスト委員会委員長から頂きましたが、最後まで席を立つ参加者はほとんどおらず、大きな拍手の元に閉会しました。今後も、このような活動を、腎臓学会や病理学会を通して行っていきたいと思います。

最後に、ご参加の皆様、病理学会事務局、京都大学スタッフの方々、そして本フェストのねらいを十分ご理解いただき、完成度の高いハンドアウトへの執筆、当日の時間内の充実したご講演をいただきました諸先生に感謝申し上げます。

## プログラム

平成 27 年 9 月 5 日 (土)

### 第 1 部 腎生検病理診断に必要な基礎知識

1. 臨床に意味のある病理診断 (片渕 律子)
2. 腎の疾患分類を理解する (長田 道夫)
3. 病理診断に役立つ臨床情報 (西 慎一)
4. 腎臓の構造と機能 (長濱 清隆)

### 第 2 部 病変の読み方と病態の把握

1. 糸球体病変の多様性活動性 (清水 章)
2. 間質・血管病変の多様性活動性 (岡 一雅)
3. 観察のフローチャート：主座時相 (益澤 尚子)
4. 蛍光抗体法の質と診断意義 (原 重雄)
5. 電顕診断の有用性と限界 (上杉 憲子)
6. 小児の腎臓病の特殊性 (松岡健太郎)
7. 病理診断書の書き方 (本田 一穂)
8. 質疑応答

平成 27 年 9 月 6 日 (日)

### 第 3 部 症例検討

1. 症例 1 FSGS ネフローゼ症候群の鑑別診断 (清水 章)
2. 症例 2 ループス腎炎 メサンギウム/管内増殖の鑑別診断 (原 重雄)
3. 症例 3 半月体形成性糸球体腎炎 管外増殖の鑑別診断 (大橋 隆治)

4. 症例 4 膜性増殖性糸球体腎炎 MPGN の鑑別診断 (本田 一穂)
5. 症例 5 間質性腎炎 間質性腎炎の鑑別 (小池 淳樹)
6. 血栓性微小血管症 TMA の鑑別 (大橋 健一)

## 演者

|       |                  |
|-------|------------------|
| 片渕 律子 | 福岡東医療センター 腎臓内科   |
| 長田 道夫 | 筑波大学 腎・血管病理学     |
| 西 慎一  | 神戸大学 腎臓内科        |
| 長濱 清隆 | 日本医科大学 第一病理      |
| 清水 章  | 日本医科大学 第一病理      |
| 岡 一雅  | 兵庫県立西宮病院病理診断科    |
| 益澤 尚子 | 津市市民病院 病理科       |
| 原 重雄  | 神戸大学 病理診断科       |
| 上杉 憲子 | 筑波大学 腎・血管病理学     |
| 松岡健太郎 | 国立成育医療センター 臨床検査部 |
| 本田 一穂 | 昭和大学 解第一剖学       |
| 大橋 隆治 | 日本医科大学 病理診断科     |
| 小池 淳樹 | 聖マリアンナ医科大学 病理学   |
| 大橋 健一 | 横浜市立大学 病理診断科     |
| 小林 凡子 | 土浦協同病院腎臓内科       |
| 長谷川詠子 | 虎の門病院腎臓内科        |

## お知らせ

### 1. 医学会より周知依頼

- (1) 再生医療等の安全性の確保等に関する法律に関する事務連絡について  
(厚生労働省医政局研究開発振興課)

#### 参照 HP

[http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/iryuu/saisei\\_iryuu/index.html](http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/saisei_iryuu/index.html)

- (2) 総務省取りまとめによる「各種電波利用機器の電波が植込み型医療機器等へ及ぼす影響を防止するための指針」について  
(厚生労働省医薬食品局安全対策課)

#### 参照 HP

[http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/01kiban16\\_02000106.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01kiban16_02000106.html)

- (3) 薬事戦略相談に関する実施要項の一部改正について  
(日本医薬品医療機器総合機構)

#### 参照 HP:

<https://www.pmda.go.jp/review-services/f2f-pre/strategies/0003.html>